時事新報

移住論

今日の日本は經濟の困難にして貧民の次第に增加するは民間に資本の流通を許さずして事業は起らざるに原因するものありとの次第は我輩の毎度立言しゐる所なれども之を救ふの方法に至ては未だ其説を得ず或は大に政府の歲入を減じて民業の資本を豐にするが如きは無策の政策ならんと雖ども是れは先頃（本年二月八日）の時事新報にも記したる如く言ふ可くして行はる可らず左れば第二法は如何と云ふに我輩の見込にては日本に餘る人民を海外に移すの外なしと信ずるものなり日本の人口の增加するは毎年五十萬人に下らず故に毎年此五十萬人の爲めに要する衣食は新に生ず可き筈なくして例へば其五十萬人の內三十萬人を農民とすれば新地の開墾又は農作の改良にて三十萬人の衣食は新に農業より収穫するの外出所ある可らず假令へ之を收穫したりとて生計の別段に豐あるには非ず丁度その前年に異あるなしと云ふまでのことにて餘り面白き譯けにもならざるが今日の所にては其新衣食を生せざるのみか舊來の事業さへ衰へて十數年前の有樣に立戻りたりと云ふ、事業は起らずして人口は增加す、衣食の足らざるも謂れなきに非ざるなり倘ほ此上にも維新以來は運輸の便の開くに隨ひ人力を省ける隨て力役者又諸商人等の職業を奪はれたること少なからず例へば駕籠なれば人足二人にて一人の客を擔ぐ其代りに人力車は一人にて車を挽く其上に駕籠の行くこと一日八里なれば人力車は二十四里を走る可し人足の數にて既に倍の働きを爲し道の遠近にて又三倍の利益あるが故に今の人力車夫は昔の駕籠人足に比して六倍の利益あるものと云ふ可し即ち今の人力車一人にて駕籠人足の六人役を勤るが故に五人の人足は職業に離れざるを得ず又人力車の走ること駕籠に三倍すれば三日の道中を一日に走りて駕籠屋も茶屋も從前の三分一にて用を達す可くして三軒の內その二軒は廢業せざるを得ず人力車のみの影響にても斯の如し況んや彼の汽船汽車の如き何れも皆力役者の仕事を奪ひ去るの利器にして近年ますます其用を廣くすればますます力役者は數に餘りを生じて貧乏難澁の聲はますます喧しからざるを得ず經濟の實數より云へば假令へ一國に貧乏人の數を增して或は飢へて死する程の慘状に陷るものあるも物產を生ずるの數に相違なければ其國を評して貧に陷りたるものと云ふ可らず少數の人にて作りても多數の人の手に成りても其物に相違はある可らず故に今の日本の貧民が誠に貧なるも是れは唯その當人の難澁にして一國全體の經濟より見るときは數年前の日本も今の日本も貧富に相違なきのみとなしと雖ども是れは唯經濟の理窟論にして人情の一方より見れば此貧しき無きの貧民とても均しく日本の粟を食むものにして同國一味の人に外ならざれば其貧苦に堪へざるを見ては實以て打棄て難く氣の毒にも亦憐むべき次第なれとも只憐れと計りにて同情相助くるの道を盡さゞれば是れ所謂婦人の仁あり去れば近來諸方にて慈善の會を立て救恤の法を設け百方周旋して遺算なきにはあらざれども何を云ふにも目に餘る貧民、其數年々減少するなきは愚か人口の增殖に連きて日に益々多きを加ふるの勢なれば如何に慈悲深き善人ありと雖ども今まさ身を殺して仁を爲す程の決心もなかるべし畢竟するもの仁惠を以て賑はされ貧民を救はんとも思ふ人の當いよいよ增くして貧民の實いよいよ迫り窮に餓ゑ寒ゆるに至らんとも必せり飢饉は人の最も堪へ難き所にして貧民も死生の一段に臨みては最早貴賤の境界に非ず去ればとて別に衣食を求むるの道もあらざれば恒產なきもの丶癖として窮まて濫る〻は自然の勢なり借りて返さず買ふて償はざるは尋常一樣の風となり或は假に人の家を燒き人の生を傷ふの甚だしきに至らざるも故らに小罪を犯して縲目に掛り獄裡一夕の握飯を以て三日の飢を醫さる如き奇策を捻出する者さへなるなどの場合に於ても是れぞ社會の安寧秩序を妨ぐるものにして即ち經濟紊亂の端緒なれば今の時に當り斯民を其未だ甚だ窮せざるに救ふの道を講じて海外移住の路を開くは當人の爲めにも又一國全體の爲めにも目下焦眉の急務なりと云ふべし

窮猿林に投ず豈に樹を擇ぶに暇あらん貧民を海外の地に移植せば經國治民の望は既に足れり復た其行先きの地を卜するにも及ばざるに似たれども移住當局者の身と爲りてその起居營生等の利益の爲めに擇ぶ可きを擇ばざるは智者の事にあらず又世界の廣大なる撰んで撰びに當るものなきにあらざれば篤と日本人民恰好の移住地を穿鑿するも亦無用の勞と云ふ可らず熟らく按ずるに舊世界には人口既に塡塞して殆んど餘地なし偶々之れあるも亞弗利加（アフリカ）の內地か西比里亞（シベリヤ）の北方のみ何れも人類の生を遂ぐるに易からず境壤廣くして人口疎なるも氣候一に偏して寒き所は極めて寒く熱き所は極めて熱く中和の天氣に生育したる日本人民には甚だ不適當なりと云はざるを得ず依て眼を轉じて他を求るに太平洋の彼岸に一國あり北米合衆國と云ふ其人情風俗自由寬大にして能く他鄉の人を容れ然かも氣候は順にして地味は肥なる最も日本人の起居營生に恰當するものあるに我輩は先づ此合衆國を推して移住の撰に當らしむるものなり

米國學士の說に米國土壤は廣大なる曠野千里に亘り菽麥を植へんとすれば農地あり牛羊を飼はんとすれば牧野あり山に獵りして水に漁り或は開鑛の企て或は伐材の業一として夫れ相應の土地あらざるなく土地の形勢に由て氣候固より均しからず北、湖水近邊にては兒童橇に乘て雪中に戲るれば又同時に南方フロリダに到れば百花咲き亂れて香風人の衣を襲ふあり步を西に轉じてカリフオルニヤ州に入れば天氣殊に順和にして四時青草を踏み熱さも六十度に出でず寒さも四十度の下に下らず一領の衣以て冬夏に兩用をべし去れば北米合衆國こそ日本人民の移住に最良の鄉なるのみならず寒國人來たれば寒地あり熱國人來れば熱地あり寒暖冷熱只移住人民の望み次第なる其上に從前の人口は稀少にして移住人と衣食を爭ふものなし抑も米國人口の繁殖速かなる往くを尋ねて來るを推せば千九百七十年には四億七千四百萬の多きに上り殆んど千八百八十年の人口に十倍すべしと雖ども是とて九十年後の談なり好しや九十年目の曉には彌々豫算通りになるとしても之を歐洲九十年後の人口に比すると猶ほ以て小勢の人數と云はざる可らず然るを況んや東洋諸國の多人數に較ぶ可けんや東洋の人口を推算すれば其時には七億五千萬以上に上りて其三分の二は皆やつやつしき貧乏なる者共のみ今此三分の二即ち五億餘の貧民が相率ゐて米國に移住するとも米國は決して土地の狹きを感ずるなき數理に照して明白なる事實なりと

以上は米國の學士が身其の境に居て取調べたる實際談なり此說をして果して大差なからしめば日本人民の移住すべきは實に此米國にして風土と云ひ人情と云ひ上帝特別に此樂郊を設けて日本貧民を濟度するの地となしたるもの〻如し然れども米國は是より三千里遠隔なくして不便利なる多し此一點少しく移住の實行に困難を與ふるものあらんなれども今後航海の事業は益々盛んになるも衰ふべき筈なく衰へずして盛んなるに至れば其利益は一番に日米間往復の移住民に降り來りて米國人よ我國の東歸ゐるに相違なかるべし況んや東歸の主人任遊客と喜びともに天與の幸福を與にせんとするもの〻るにおゐてをや日本人民豈に數千里を遠しとすべけんや

（以下次號）

官報

○海軍省訓令第五十四號　海軍一般

勳四等旭日小綬章以下ノ勳章ヲ海軍軍人ニ授與スルニハ左ノ式ヲ以テス

明治二十年五月三十日　海軍次官子爵樺山資紀

第一　准士官以上ニ授與セラル丶勳章ハ左ノ例ニ依リ奉授ス○在東京者ニハ海軍大臣奉授ス○東京外ニ在ル者ニハ海軍大臣ヨリ各所管長官ニ送付シテ奉授セシム○軍港內ニ在ル鎭守府司令長官部下ノ者ニハ該司令長官奉授シ軍港外ニ在ル者ニハ各所屬長ニ送付シテ奉授セシム○艦隊司令官ト同港內ニ在ル者ニハ該司令官奉授シ同港內ニ在ラサル者ニハ各艦船長ニ送付シテ奉授セシム

第二　下士以下ニ授與セラル丶勳章ハ海軍大臣ヨリ鎭守府司令長官ニ送付ス鎭守府司令長官ハ其部下ニ屬スル者ニ授與セラル丶モノハ各所屬長ニ付シテ奉授セシメ他所管長官ノ部下ニ屬スル者ニ授與セラル丶モノハ該長官ニ送付ス○艦船營ノ下士以下ニ授與セラル丶勳章ハ各所管長官之ヲ艦船營長ニ付シテ奉授セシム

第三　海軍大臣奉授ノ式場ハ海軍省內ニ設ク其式場ニハ軍務局長大臣秘書官一名大臣傳令使一名敍勳者四名以上班列スルモノトス

第四　鎭守府司令長官奉授ノ式場ハ府內便宜ノ所ニ設ク其式場ニハ軍港司令官參謀長秘書傳令使及敍勳者四名以上班列スルモノトス

第五　艦隊司令官艦船長ノ奉授ハ艦船ノ甲板上ニ於テシ奉授ノ節ハ總員整列ヲ爲サシムヘシ

第六　營長ノ奉授ハ營內ノ練兵場ニ於テシ奉授ノ節ハ總員整列ヲ爲サシムヘシ

第七　式場ニ班列スル敍勳者ハ受章者ト同等以上ノ者ニ限ル又四名以上ヲ得サルトキハ欠ルモ妨ナシ

第八　前諸項ニ掲ケサル所管長官ノ奉授式場ハ該長官適宜之ヲ撰定シ班列者ハ其部下ニ於テ撰定スヘシ

○文部省告示第五號

今般高等中學校設置區域第五區內熊本ニ高等中學校ヲ設置シ第五高等中學校ト稱ス

明治二十年五月三十日　文部大臣子爵森有禮

○敍勳

敍勳二等賜旭日重光章　陸軍少將從四位勳三等　品川氏章
敍勳四等賜旭日小綬章　陸軍少將從四位勳三等　岡澤精
仝　陸軍砲兵大佐正七位勳五等　楢村元貴
仝　陸軍步兵中佐正七位勳五等　渡邊佳介
仝　岡山縣書記官從六位勳五等　桐山純作
仝　公使館書記官陸軍步兵中佐正六位勳五等　增田保作
仝　海軍少佐從六位勳五等　大久保春野
仝　陸軍步兵中佐正六位勳五等　有尾敬五
仝　陸軍主計官正六位勳五等　兒島惟謙
仝　大坂控訴院長從四位勳五等

○農作霜害　千葉縣下に於て去る二十三日午後五時半頃暴雨に雹を交へ凡十分間降りたるとは曾て官報に掲載せしが猶其詳報に據れば千葉郡の內東南位の數村殊に山間の麥圃は甚しき雹害に罹り幼き收穫の見込なきもの凡十七八町步に至れり而して降雹の最大なるは直徑五分許積ると三寸に及ぶ所あり然るに苗代には敢て害なきが如し望陀郡木更津邊は少しく降雹ありしも作物には害なく香取郡佐原町埴生郡佐倉郡上郡銚子等の近傍は多少降雨あるも雹を交へず隨ひて作物に被害なしと同縣より報告あり○茨城縣眞壁郡下妻地方に於て去る二十二二十三の兩日雷雨あり其際同郡嶋幡村に降雹凡そ十五六分間にして平均八九寸堆積し大麥蠶豆の如き爲に幾分か耕作物を害せり就中麥菜の被害最甚し

○游民兵の渡韓を禁止するの告示　支那北部に於ける無頼漢及游兵等は無事に苦むの餘、竊に朝鮮に渡航し所在爭擾せしむるに付き近頃山海關道事廣氏は左の告示を發したり

近來當地方の游民游兵等は濟に汽船に乘込み或は迂路義州地方よりして朝鮮國の各口岸に赴き土地の奸匪と通じ種々不良なる所爲を働き地方を爭擾するものある趣朝鮮總商務總辦袁氏より照報を以て通知あり因て本官は直ちに稅務司穆氏に傳令するに朝鮮へ向け通航すべき船舶內は嚴密詳細に檢査を遂げしめ倘し形迹の疑ふべき者は總て適宜に乘込を阻止すべき旨を以てせり因て敢て之を犯す者あれば民人及兵勇に論なく嚴に究辦せしめ決して寛貸せざるべし特に論す

（以上本年五月三十日官報）

雜報

○技術家の需用　近來全國到る處鐵道、紡績、織物其他の工業に關する諸會社の設立益々盛んなるが此等の實

◎日本鐵道會社廣告
一日本鐵道會社株式ノ內二十株
右華族從五位子爵松平信安所有ノ分今般世襲財產ト爲シ度旨出願ノ趣宮內大臣ヨリ移達候條故障アル者ハ來ル七月八日迄ニ當社ヘ申出アルヘシ
但株券番號ハ當社會計局ヘ申出アルヘシ

○中央學術雜誌　第五十一號　五月廿五日發兌
目次○學生近視眼ノスタチスチック 横山雅男○近世哲學 文學士三宅雄次郎○萬法唯心說 嶋地默雷○アダム、スミッス論 大石勉三譯○宇宙ハ天律ノ下ニ…件（定

世ノ風潮英語ノ必用ハ既ニ人ノ知ル…深奥ヲ究メ弘ク外人ニ接シ且高等中學…二ノ獨逸語ヲ學ハザル可ラズ然…朝ニシテ學ブ可ラズ故ニ今般規則…ヲ增シ英語ノ傍ラ獨語ヲ…獨兼學スルモ月謝ヲ增サズ）又…